

北極域実践コミュニティ

VOICES from the ARCTIC

Vol.5 2022.2.24

ArCS II 国際政治課題 北極域実践コミュニティ事務局

ユーコン最大のCOVID-19の発生が激化、スカグウェイは同様の運命を避けようとしている



カナダのユーコン準州では、これまでで最大のCOVID-19の流行が発生しており、54人の患者が発生し、1人のコロナウイルス関連の死亡が確認されている。水曜日の朝の時点で、患者数はわずか2日間で2倍以上に増えている。スカグウェイの現地当局は、この夏に訪れる10万人近いクルーズ船の乗客に備えて、同じようなアウトブレイクが起こらないようにするための対策を講じている。

記事参照：The Yukon's largest COVID-19 outbreak intensifies, Skagway looks to avoid a similar fate - Alaska Public Media
(2021.6.18/Alaska Public Media)

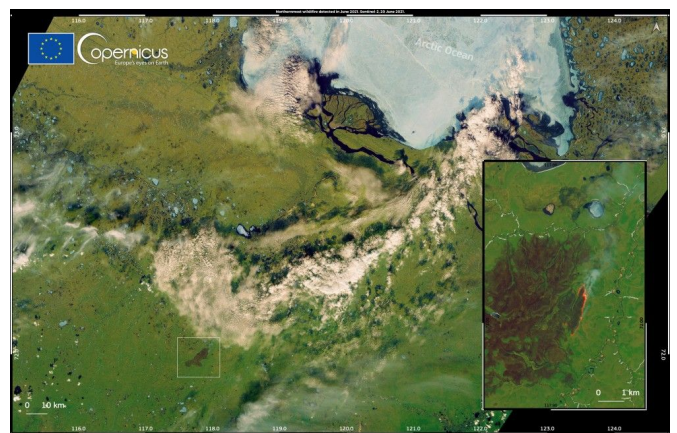
→A satellite image shows a fire burning southwest of the Lena River delta in the Russian Arctic. (EU Commission Directorate-General for Defence Industry and Space via The Independent Barents Observer)

衛星がシベリアで発生した異常に北に位置する山火事を発見



EU委員会の国防産業・宇宙総局（DG DEFIS）は、シベリア北部のタイミル半島（クラスノヤルスク地方）とサハ共和国で発生した火災の衛星写真を公開した。この写真では、北極海に面したレナ川の三角州の南西にあるツンドラ地帯の広範囲で炎が広がっている。シベリアや極東地域で山火事が多発しているのは、夏の乾燥と高温が主な原因だという。

記事参照：Satellites reveal an unusually far north wildfire in Siberia - ArcticToday
(2021.6.21/ARCTIC TODAY)



カナダ北部に住む人々から、有害で長期にわたる汚染物質が検出される



研究者たちは最近、北極圏の湖やホッキョクグマ、ワモンアザラシなどの野生動物に、人間が作り出した長期的な汚染物質が蓄積されていることを発見した。これらの汚染物質は、食品包装材、防水性衣類、消防用発泡剤などに使用されている。この種の化学物質は環境中で分解されず、野生生物や人間に健康被害を及ぼす可能性がある」と懸念されている。

記事参照：Toxic, long-lasting contaminants detected in people living in northern Canada - ArcticToday (2021.6.18/ARCTIC TODAY)

シベリア、再び記録的な暑さに



EUの観測衛星が今週初め、ロシアの北極圏で48度の土壌温度を測定した。シベリアを襲っている熱波は、ロシア北極圏の一部に記録的な高温をもたらし、近年すでに記録的な数の森林火災が発生しているこの地域で、より激しい森林火災の危険性をもたらしている。

記事参照：Siberia sees record heat — again - ArcticToday (2021.6.24/ARCTIC TODAY)

北極圏のツンドラでは緑化が早まり、成長期が長くなるとの研究結果が発表された



北極圏が温暖化すると、植物の発芽や開花が早まり、葉の保持期間が長くなるため、生育期間が長くなると考えられる。これは、北極周辺の観測サイトと、北極のかなり南に位置する高地の観測サイトで得られた一貫したパターンであり、学術誌「Nature Communications」に掲載された新しい研究で詳細が明らかにされている。

記事参照：Arctic tundra will see an earlier green-up and longer growing seasons, study says - ArcticToday (2021.6.23/ARCTIC TODAY)

待望の中央北極海無規制公海漁業防止協定が発効



中央北極海の国際水域での商業漁業を一時的に禁止する国際協定が金曜日に発効した。北極圏および非北極圏の国々、欧州連合（EU）を含む10の加盟国は、生態系の理解が深まり、持続可能な規制が導入されるまで、この地域で商業的な漁業を行わないことを誓った。この条約は16年間有効で、5年ごとに延長することができる。

記事参照：A long-awaited Central Arctic Ocean commercial fishing ban takes effect - ArcticToday (2021.6.25/ARCTIC TODAY)

燃料を食べるバクテリアは 寒冷地でも有効であること がグリーンランドのプロジ ェクトで明らかに



極地の軍事・科学施設で発見された燃料汚染は、人間の助けを借りれば、自然界に存在するバクテリアによって除去することができると期待されている。ランドファーマーミングとは、汚染された土壌を薄く敷き詰め、毎年耕し、肥料と水を与えて、汚染された有機化合物を分解するバクテリアの繁殖を促すというもので、5年後には最大90%の効果があることが示された。

記事参照：Fuel-eating bacteria can be effective in cold climates, a Greenland project shows - ArcticToday (2021.6.28/ARCTIC TODAY)



↑Sprinklers water a landfarming area at the Mestersvig station in Greenland. Plowing, watering and fertilizing the soil each year helps the bacteria that break down the pollution to grow. (Anders Christian Vestergaard / Forsvarets Ejendomsstyrelse)

迫る北極圏の崩壊。ロシア北 部の建物の40%以上が崩れ始 めている



永久凍土の融解により、これまで強固だった地盤が急速に劣化しているため、ロシア全土の建物やインフラに甚大な被害が出る可能性がある、ロシアの天然資源大臣は警告している。記事参照：The looming Arctic collapse: More than 40% of north Russian buildings are starting to crumble - ArcticToday (2021.6.29/ARCTIC TODAY)

Ravn社は、アジアやLower48 へのフライトも視野に



Ravnアラスカ航空の最高経営責任者は今週、ボーイング757ジェット機を使用して、アラスカ以外のLower48およびアジアへのサービス拡大を検討していると述べた。ロブ・マッキニー氏がYouTubeのビデオで語った新サービスは、約10機の新型機を使用し、東京、ソウル、オランダ、ニューアーク、ラスベガス、オークランド、そしてロサンゼルス郊外のオンタリオに飛ぶ予定だ。

記事参照：Ravn says it's eyeing flights to Asia and the Lower 48 - Alaska Public Media (2021.6.29/Alaska Public Media)

